

明豊祭の作文 全号から引き続き、明豊祭の作文を紹介します。次は4組です。

「ドキドキ」一年生のみんなに緊張が走る。みんな手を合わせて、自分たちのクラスを呼ばれたいと心から願っていた。「次に結果発表です」と言われた瞬間、会場は静まり返った。初めての明豊祭で結果がどのように発表されるかよくわからなかったため、余計に緊張していた。「優秀賞は・・・」アナウンスに間が空いた。ここで呼ばれたいと願う人、最優秀賞をとるためにまだ呼ばれたくないと願う人。色々な願いがあったが、僕はクラスの目標である最優秀賞をとりたいと思っていたので、呼ばれないことを願った。「大切なものを・・・」2組が大声を上げた。そこで少しほっとした自分がいた。盛り上がっている2組とまだ願い続けている他のクラス。僕たちは「最優秀賞をつかむチャンスがまだある！」と思いながら今度は本気で願った。目を閉じると練習中のみんなを思い出した。手の中には熱い何かがあるようだった。そして、「最優秀賞は・・・」この間がとても長く感じた。「C O・・・」と聞こえた瞬間、僕たちは大声をあげて喜んだ。笑っている人もいれば、泣いている人もいた。

この経験からみんなで一生懸命取り組み、全力を出すとクラスが団結し、合唱を聞いたり、その姿を見たりすると人の心を大きく動かすことができるようになった。これからの行事でも、この明豊祭のように一つになってまとまり、心を動かせるようになりたいと思った。

明豊祭当日、私はそこまで緊張していなかった。3組が歌い始めてから少し緊張してきた。舞台上がってやっと自分でも「ドクッ」という心臓の音が聞こえてくるようになった。あまり緊張しないタイプだったので、これには自分でも少し驚いた。しかし、指揮者が手を挙げて伴奏が流れた瞬間、実際にはいる観客が見えなくなり、緊張が吹き飛んだ。多分、指揮者をしっかり見ていたのと、歌うことに夢中になっていたからだと思う。今までの練習やみんなのやる気を見ていたから「絶対に勝てる」と思えたし、まるで、4組だけの世界で歌っている気分だった。

気がついたら私たちの歌は終わっていた。私には本当に一瞬に感じた。そして他のクラスの歌もすべて終わった。2組もすごいなと思ったけれど、絶対に1位をとれる自信があった。迎えた結果発表。「最優秀賞はCOSMOS」と言われたとき、本気で「4組でよかった」と思った。